



# 時実新子展

川柳作家



かみんぼーと  
花影の花に  
あま

撮影 白谷達也

2011年

1月5日(水)～2月6日(日)

9時30分～17時

休館日 1月11日(火)・17日(月)・24日(月)・31日(月)

徳島県立文学書道館 1階特別展示室・ギャラリー  
(徳島市中前川町2-22-1・TEL088-625-7485)

主催 徳島県立文学書道館  
協力 吉備路文学館、「川柳大学」事務局  
後援 徳島新聞社、NHK徳島放送局、四国放送、朝日新聞徳島総局  
毎日新聞徳島支局、読売新聞大阪本社、エフエム徳島

川柳作家として一時代を築き、独特の作風で多くの川柳ファンをもち、川柳人口を増やした時実新子。その生涯をたどり、代表句を展示し、その創作の秘密に迫ります。

また時実新子は初めてのエッセイを徳島の新聞に連載したり、新聞連載「じぐざぐ遍路」で徳島を回ったり、死期の迫ったファンの見舞いに療養所を訪れたりし、徳島との少なからぬ縁をもっています。これらを「時実新子と徳島」のコーナーで展示し、多くのエッセイ集や対談集からも、その人柄をしのびます。



### 時実新子 (1929～2007) プロフィール

岡山県立西大寺高等女学校卒業後、合格していた医専が戦災に遭い、17歳で結婚。姫路の文具店の大家族の中で暮らす。25歳で、新聞への投句から川柳を始め、63年、初の句集「新子」を自費出版。その奔放な詠みぶりは川柳界の与謝野晶子と呼ばれた。87年、夫ある女の恋を詠んだ句集「有夫恋」がベストセラーになる。95年、阪神・淡路大震災後、仲間と句集「悲苦を超えて」を発表、あえて被災地の神戸に事務所を構えて「川柳大学」を創刊。対談やエッセイも多く、様々なメディアの柳壇を担当、抜群の選句力、鑑賞力で現代川柳の魅力と深さを伝え、すそ野を大きく広げた。著書に「花の結び目」「小説新子」「白い花散った」「時実新子全句集」など。



句集「有夫恋」  
1987年刊

悪い男と心ひとつに薔薇を見た

妻をころしてゆらりゆらりと訪ね来よ

雪中の一軒焼いてあそぼうよ

まちがいはまちがい通せ桐の花

死に顔の美しさなど何としよう

死ねばこの風に逢えなくなる九月

愛咬やはるかはるかにさくら散る

かくれんぼして花影の花になる

君は日の子われは月の子顔上げよ

うららかな死よ その節はありがとう

「新子百句」より 1983年刊

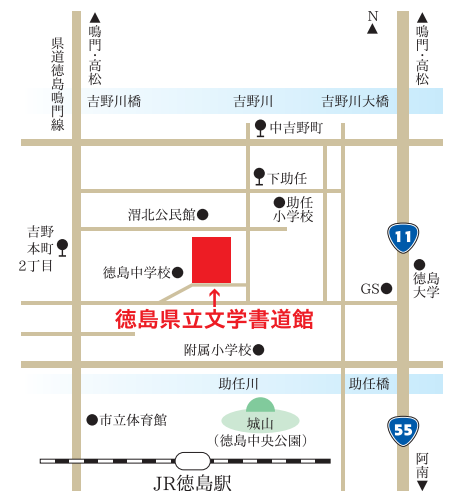
### 関連事業

参加無料 (ただし、講演・ワークショップは整理券が必要。当館受付に直接か、往復葉書で申し込む)

- 1月8日(土)講演 午後1時30分～3時 (先着100名)  
講師 安藤まどか(「川柳大学」事務局・時実新子長女)  
演題 「母 時実新子を語る」
- 1月16日(日)現代川柳ワークショップ 午後1時30分～3時  
講師 渡辺美輪(川柳作家・神戸新聞柳壇選者)
- 1月22日(土)講演 午後2時～3時30分 (先着100名)  
講師 玉岡かおる(作家)
- 1月23日(日)テーマ朗読会「時実新子」 午後1時30分～3時

### ●〈川柳募集〉現代川柳(自分を詠んだ句)、未発表句に限る

期 間 2011年1月5日～30日(必着)、一人一枚(葉書) 雑詠1句 題詠1句  
住所・氏名(本名とあれば雅号)・電話番号・年齢  
文字はわかりやすく大きく、一句一行で書く。どちらか1句のみでもよい。  
選 者 川柳作家・杉山昌善(雑詠)、川柳作家・渡辺美輪(題詠「走る」)  
宛 先 徳島県立文学書道館「時実新子展 川柳」係  
結果発表 2月6日(日)展覧会最終日、館に掲示、本人に通知  
雑詠・題詠(各特選1句、入選3句、佳作5句)  
副賞(図書カード)特選 1万円分・入選 5千円分



高速バス 神戸から1時間半、大阪から2時間半  
便多数あり

観覧料 ●一般 500円(400円) ●高・大学生 350円(280円)  
●小・中学生250円(200円)

( )内は20名以上の団体料金です。上記料金で常設展示室もご観覧いただけます。  
小・中・高校生は土・日・祝日・長期休暇は無料、高齢者(65歳以上)と障害のある方は半額です。

### 言の葉ミュージアム 徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2-22-1  
TEL088-625-7485 FAX088-625-7540  
ホームページ <http://www.bungakushodo.jp>